

不登校及び不登校傾向の生徒数に関わる質問

| | |
|----------------|---|
| 学校名 | 立 |
| 回答者氏名 | |
| 役職（教頭・生徒指導主事等） | |

(1) 令和4年度3月末時点での各学年の在籍人数をご記入ください。（特別支援学級の生徒を含みます。）

| | | | | | |
|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 人数（人） | | 人数（人） | | 人数（人） |
| 1年生 | | 2年生 | | 3年生 | |

(2) 令和4年度の各学年の不登校の生徒数をご記入ください。（特別支援学級の生徒を含みます。令和4年度3月末時点での人数で回答してください。）

不登校の生徒とは「何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいはしたくともできない状況にあるため年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由、新型コロナウイルスの感染回避を除いたもの」とする。※文部科学省が行っている「令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」で報告した不登校者数を参照し、記入してください。

| | | | | | |
|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 人数（人） | | 人数（人） | | 人数（人） |
| 1年生 | | 2年生 | | 3年生 | |

(3) 令和4年度の各学年の不登校傾向の生徒数をご記入ください。（特別支援学級の生徒を含みます。令和4年度3月末時点での人数で回答してください。）

不登校傾向の生徒とは、「何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、教室に入ることが難しく保健室や別室などの教室以外の場所に登校していた者（一時的な利用も含める）や遅刻・早退をしていた者のうち、年間30日未満欠席した者」とする。

| | | | | | |
|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 人数（人） | | 人数（人） | | 人数（人） |
| 1年生 | | 2年生 | | 3年生 | |

(4) 令和4年度に不登校及び不登校傾向の生徒が利用する学校外の区市町教育委員会が運営する教育支援センター（適応指導教室）に一度でも通ったことがある生徒数をご記入ください。

教育支援センター（適応指導教室）とは、教育委員会や首長部局に設置された主に不登校児童生徒への支援を行うための機関。社会的自立に向けて、学校生活への復帰も視野に入れた支援を行うため、在籍校と連携しつつ、個別カウンセリングや少人数グループでの活動、教科指導等を組織的、計画的に行っている機関。【文部科学省「生徒指導提要」より】

| | | | | | |
|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 人数（人） | | 人数（人） | | 人数（人） |
| 1年生 | | 2年生 | | 3年生 | |

(5) 令和4年度に不登校及び不登校傾向の生徒が利用するフリースクールに一度でも通ったことがある生徒数をご記入ください。

フリースクールとは、不登校の子供に対し、学習活動、教育相談、体験活動などの活動を行っている民間の施設。【文部科学省ホームページより抜粋】

| | | | | | |
|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 人数（人） | | 人数（人） | | 人数（人） |
| 1年生 | | 2年生 | | 3年生 | |

※「不登校及び不登校傾向の生徒数に関わる質問」の回答の提出は、右記の二次元コードを
読取り、Google Formsにてお願いします。



不登校の未然防止・援助要請に関わる質問

未然防止とは、「特定の児童生徒を想定せず、全ての児童生徒を対象に学校を休みたいと思わせない「魅力的な学校づくり」を進めること」とする。【国立教育政策研究所「生徒指導リーフ 不登校の予防」より】

援助要請とは、「個人が問題を抱え、それを自身の力では解決できない場合に、必要に応じて他者に援助を求めること」とする。【永井智「援助要請スタイル尺度の作成」より】

(1) 令和4年度に、学校として、生徒が援助要請を出しやすいよう取り組んだことや問題の早期発見・早期対応のために実施したことについて、あてはまるものを選択してください。(複数回答可)

- 悩み等を聞き出すアンケート調査 → (2) へ
- QU 検査等の市販のアンケート調査 → (3) へ
- 定期的な生徒との面接相談 → (4) へ
- 悩み相談等のためのポストの設置 → (5) へ
- ユニバーサルデザインに基づく授業の工夫、校内掲示等 → (5) へ
- 市町のシステムに連動した端末からのオンライン相談システム → (5) へ
- 学校独自の端末からのオンライン相談システム (Google classroom や classi) → (5) へ
- 教育相談・生徒指導に関する年間指導計画の作成 → (5) へ
- 生徒同士のピア・サポート活動 → (5) へ
- 生徒向けの対人関係や援助要請に関する文書の作成・配布 (保健だよりなど) → (5) へ
- 人間関係づくりプログラム → (5) へ
- ソーシャルスキルトレーニング → (5) へ
- 特にしていない → (6) へ
- その他 () → (5) へ

ピア・サポートとは、「学生たちの対人関係能力や自己表現能力等、社会に生きる力がきわめて不足している現状を改善するための学校教育活動の一環として、教職員の指導・援助のもとに、学生たちの相互の人間関係を豊かにするための学習の場を各学校の実態に応じて設定し、そこで得た知識やスキル (技術) をもとに、仲間を思いやり支える実践活動」とする。

【日本ピア・サポート学会 ホームページより】

(1) で“悩み等を聞き出すアンケート調査”と答えた方にお聞きします。

(2) アンケート調査を実施した月について、あてはまるものを選択してください。(複数回答可)

- 4月 5月 6月 7月 8月 9月
- 10月 11月 12月 1月 2月 3月

(1) で“QU 検査等の市販のアンケート調査”と答えた方にお聞きします。

(3) アンケート調査を実施した月について、あてはまるものを選択してください。(複数回答可)

- 4月 5月 6月 7月 8月 9月
- 10月 11月 12月 1月 2月 3月

(1) で“定期的な生徒との面接相談”と答えた方にお聞きします。

(4) 生徒との面接相談を実施した月について、あてはまるものを選択してください。(複数回答可)

- 4月 5月 6月 7月 8月 9月
- 10月 11月 12月 1月 2月 3月

(1) で把握した生徒からの援助要請を、校内の教育相談や支援体制にどのようにつなげたかについてお聞きします。

(5) 様々な生徒から発信された援助要請を受け止め、その後どのように対応したかについて、あてはまるものを選択してください。(複数回答可)

- 管理職への報告、相談
- 生徒指導主事への報告、相談
- 養護教諭への報告、相談
- 全教職員での情報共有や対応の検討
- 対応を検討するための会議(ケース会議等)の開催
- スクールカウンセラーとの情報共有や対応の検討
- スクールソーシャルワーカーとの情報共有や対応の検討
- 学校外の関係機関との情報共有や対応の検討
- 保護者への連絡
- 関係する生徒への聴き取り
- 生徒への啓発活動
- その他()

(6) 生徒から発信された援助要請を受け止める方法の中で、特に効果があったと感じるのはどの方法でしたか。該当するものを三つまで選択してください。

- 悩み等を聞き出すアンケート調査
- QU検査等の市販のアンケート調査
- 定期的な生徒との面接相談
- 悩み相談等のためのポストの設置
- ユニバーサルデザインに基づく授業の工夫、校内掲示等
- 市町のシステムに連動した端末からのオンライン相談システム
- 学校独自の端末からのオンライン相談システム(Google classroomやclassi)
- 教育相談・生徒指導に関する年間指導計画の作成
- 生徒向けの対人関係や援助要請に関する文書の作成・配布(保健だよりなど)
- 生徒同士のピア・サポート活動
- 人間関係づくりプログラム
- ソーシャルスキルトレーニング
- 特に有効な方法はなかった
- その他()

学校全体で取り組んだ対人関係や援助要請に関するスキル指導についてお聞きします。

(7) 学校全体で取り組んだ対人関係や援助要請に関する生徒へのスキル指導と指導した主な時間について、あてはまるものに○をしてください。(各スキルで一つ○をしてください。)

| いつ スキル名 | 学級活動 | 道徳 | 朝や帰りの ホームルーム | 出前講座 | その他の時間 | 取り組んでいない |
|--------------------|------|----|-----------------|------|--------|----------|
| 人間関係づくり プログラム | | | | | | |
| ソーシャルスキル トレーニング | | | | | | |
| ピア・サポート活動 | | | | | | |

(8) (7) で出てきた生徒へのスキル指導以外で実施した内容があれば記述をお願いします。(ない場合は“なし”と記述をお願いします。)

※「不登校の未然防止・援助要請に関わる質問」の回答の提出は、右記の二次元コードを
読取り、Google Forms にてお願いします。



学校と関係機関との連携（不登校について）に関わる質問

(1) 令和4年度に、不登校に限定して学校外の関係機関と連携したケース数をご記入ください。

() 件 → 1件以上の場合は(2)へ、0件の場合は(3)へ

連携したとは、「関係機関との連絡、情報提供、情報共有、相談、会議等の開催など」と想定する。

(2) (1)で連携したケース数が1件以上の方にお聞きします。代表的なケースを最大3ケースまで選び、以下の①～⑤の質問にお答えください。

1 ケース目

(1ケース目-①) 連携したケースの不登校の背景として考えられるものについて、あてはまるものをすべて選択してください。(複数回答可)

- () いじめ
- () いじめを除く友人関係をめぐり問題
- () 教職員との関係をめぐり問題
- () 学業不振
- () 進路をめぐり問題
- () 部活動への不適応
- () 家庭環境をめぐり問題
- () 非行
- () 無気力
- () その他()

(1ケース目-②) 学校が連携した関係機関について、あてはまるものを選択してください。(複数回答可)

- () 県市町教育委員会が運営する教育支援センター(適応指導教室)
- () 民間が運営するフリースクール等
- () 病院・クリニック
- () 児童相談所
- () 市町の関係各課(福祉課や子ども家庭課など)
- () 警察・少年サポートセンター
- () その他()

(1ケース目-③) 学校がどのような連携をしたかについて、あてはまるものを選択してください。(複数回答可)

- () ケース会議の実施
- () 電話による情報共有
- () 対面による情報共有
- () 書面による情報共有
- () その他()

(1ケース目-④) 関係機関との連絡は主に誰が取ったかについて、あてはまるものを選択してください。

- 管理職
- スクールソーシャルワーカー
- スクールカウンセラー
- 生徒指導担当
- 学年主任
- 養護教諭
- 特別支援コーディネーター
- その他 ()

(1ケース目-⑤) 連携した結果について、あてはまるものを選択してください。

- 顕著に改善に向かった
- やや改善に向かった
- 変化がなかった
- 悪化した
- その他 ()

2ケース目

(2ケース目-①) 連携したケースの不登校の背景として考えられるものについて、あてはまるものをすべて選択してください。(複数回答可)

- いじめ
- いじめを除く友人関係をめぐり問題
- 教職員との関係をめぐり問題
- 学業不振
- 進路をめぐり問題
- 部活動への不適応
- 家庭環境をめぐり問題
- 非行
- 無気力
- その他 ()

(2ケース目-②) 学校が連携した関係機関について、あてはまるものを選択してください。(複数回答可)

- 県市町教育委員会が運営する教育支援センター(適応指導教室)
- 民間が運営するフリースクール等
- 病院・クリニック
- 児童相談所
- 市町の関係各課(福祉課や子ども家庭課など)
- 警察・少年サポートセンター
- その他 ()

(2ケース目-③) 学校がどのような連携をしたかについて、あてはまるものを選択してください。(複数

回答可)

- ケース会議の実施
- 電話による情報共有
- 対面による情報共有
- 書面による情報共有
- その他 ()

(2ケース目-④) 関係機関との連絡は主に誰が取ったかについて、あてはまるものを選択してください。

- 管理職
- スクールソーシャルワーカー
- スクールカウンセラー
- 生徒指導担当
- 学年主任
- 養護教諭
- 特別支援コーディネーター
- その他 ()

(2ケース目-⑤) 連携した結果について、あてはまるものを選択してください。

- 顕著に改善に向かった
- やや改善に向かった
- 変化がなかった
- 悪化した
- その他 ()

3ケース目

(3ケース目-①) 連携したケースの不登校の背景として考えられるものについて、あてはまるものをすべて選択してください。(複数回答可)

- いじめ
- いじめを除く友人関係をめぐる問題
- 教職員との関係をめぐる問題
- 学業不振
- 進路をめぐる問題
- 部活動への不適應
- 家庭環境をめぐる問題
- 非行
- 無気力
- その他 ()

(3 ケース目-②) 学校が連携した関係機関について、あてはまるものを選択してください。(複数回答可)

- 県市町教育委員会が運営する教育支援センター(適応指導教室)
- 民間が運営するフリースクール等
- 病院・クリニック
- 児童相談所
- 市町の関係各課(福祉課や子ども家庭課など)
- 警察・少年サポートセンター
- その他()

(3 ケース目-③) 学校がどのような連携をしたかについて、あてはまるものを選択してください。(複数回答可)

- ケース会議の実施
- 電話による情報共有
- 対面による情報共有
- 書面による情報共有
- その他()

(3 ケース目-④) 関係機関との連絡は主に誰が取ったかについて、あてはまるものを選択してください。

- 管理職
- スクールソーシャルワーカー
- スクールカウンセラー
- 生徒指導担当
- 学年主任
- 養護教諭
- 特別支援コーディネーター
- その他()

(3 ケース目-⑤) 連携した結果について、あてはまるものを選択してください。

- 顕著に改善に向かった
- やや改善に向かった
- 変化がなかった
- 悪化した
- その他()

中学校生活3年間で不登校及び不登校傾向を経験した令和5年3月に卒業した生徒についてお聞きします。 ※いない場合は、(7)にお進みください。

(3) 生徒の進学先の学校との出欠席日数以外の情報提供・共有について、あてはまるものを選択してください。(複数回答可)

- 進学先の学校から依頼があり、情報提供・共有をした。
- 中学校側から進学先の学校に情報提供・共有をした。
- 保護者に対して、進学先の学校に連絡や相談をするように助言した。
- 特にしていない
- その他()

(4) 不登校及び不登校傾向を経験した令和5年3月に卒業した生徒のうち、進学・就労をしなかった生徒(家庭療養含む)の人数をご記入ください。

() 人

(5) 地域のひきこもり支援団体との情報提供・共有について、あてはまるものを選択してください。(複数回答可)

- () 進学する生徒について、地域のひきこもり支援団体と情報提供・共有をした。
- () 進学しない生徒について、地域のひきこもり支援団体と情報提供・共有をした。
- () 卒業前に地域のひきこもり支援団体等の連絡先、パンフレット等を保護者に提示した。
- () 特にしていない
- () その他 ()

(5) で“特にしていない”と答えた方にお聞きします。

(6) 特にしていない理由について、あてはまるものを選択してください。(複数回答可)

- () 地域のひきこもり支援団体について分からなかったから。
- () 意図的にしなかったから。
- () 必要性を感じなかったから。
- () その他 ()

関係機関との連携について、回答している方、全員にお聞きします。

(7) 関係機関との連携で大切にしていることについて記述をお願いします。(ない場合は“なし”と記述してください。)

(8) 関係機関との連携で難しいと感じていることについて記述をお願いします。(ない場合は“なし”と記述してください。)

※「学校と関係機関との連携(不登校について)に関わる質問」の回答の提出は、右記の二次元コードを読み取り、Google Formsにてお願いします。



別室に関わる質問

別室とは、「学校には登校したが、所属する学級には入れない児童生徒が終日または、短時間を過ごす教室以外の居場所（保健室、相談室を含む）」とする。【静岡県総合教育センター 「研究紀要 第26号」より】

(1) 令和4年度に不登校の生徒に対応するための「別室」を設置していたかについて、あてはまるものを選択してください。

- () 常に設置していた → (2) へ
() 使用する必要が生じたときにだけ設置していた → (2) へ
() 設置しなかった → (16) へ
() その他 () → (18) へ

(1) で“常に設置していた”、“使用する必要が生じたときにだけ設置していた”と答えた方にお聞きします。

(2) 令和4年度に「別室」を利用したことがある生徒数をご記入ください。

| | | | | | |
|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 人数(人) | | 人数(人) | | 人数(人) |
| 1年生 | | 2年生 | | 3年生 | |

(3) どこに「別室」を設置していたかについて、あてはまるものを選択してください。(複数回答可)

- () 空き教室
() 保健室内
() 相談室内
() 図書室内
() その他 ()

(4) 「別室」で生徒と関わっているのはどのような教職員だったかについて、あてはまるものを選択してください。(複数回答可)

- () 生徒の担任
() 生徒指導や教育相談に係る分掌の教職員
() その時間、授業を担当していない教職員
() 管理職
() 支援員(学習支援員や生活支援員など)
() その他 ()

(5) 「別室」の運営を主に行う教職員の配置について、あてはまるものを選択してください。

- () 別室担当者を専属で配置していた
() 他の分掌と兼務して配置していた
() 特定の教職員の配置はしていないが、必要に応じて教職員を配置していた
() 配置しなかった
() その他 ()

(6) 「別室」で生徒と関わる教職員をどのように配置していたかについて、あてはまるものを選択してください。

- () 別室を利用する生徒の有無に関係なく年度当初に作成した配置計画をもとに原則配置していた
- () 年度途中で必要に応じて作成した配置計画をもとに原則配置していた
- () 配置計画は作成せずに教職員の状況によって配置していた
- () その他 ()

(7) 「別室」を利用する生徒向けのルールを作成について、あてはまるものを選択してください。

- () 別室を利用する生徒の有無に関係なく年度当初に作成していた
- () 別室を利用する生徒がいる場合に作成していた
- () 作成しなかった
- () その他 ()

(8) 「別室」を利用する生徒向けのルールを確認するなど、管理や運営に関することを教職員間で共通理解を図る時間を設定していたかについて、あてはまるものを選択してください。

- () 別室を利用する生徒の有無に関係なく年度当初に設定していた → (9) へ
- () 必要などきにだけ設定していた → (9) へ
- () 設定しなかった → (10) へ
- () その他 () → (10) へ

(8) で“設定していた”、“必要などきにだけ設定していた”と答えた方にお聞きします。

(9) いつ共通理解を図っていたかについて、あてはまるものを選択してください。

- () 年度当初に図っていた
- () 年度途中で必要に応じて図っていた
- () その他 ()

(10) 「別室」を利用する生徒の活動の様子などをどのように共有していたかについて、あてはまるものを選択してください。(複数回答可)

- () 定期的な会議や打合せの場等で共有していた
- () ノートやシートを活用し共有していた
- () その他 ()

(11) 「別室」の存在をどのように周知していたかについて、あてはまるものを選択してください。(複数回答可)

- () 全生徒や保護者に対して、年度当初に周知していた
- () 全生徒や保護者に対して、年度途中で周知していた
- () 別室の利用を必要とする生徒や保護者に対して、適宜周知していた
- () 周知しなかった
- () その他 ()

(12) 「別室」を利用する生徒は主にどのような活動をしていたかについて、あてはまるものを選択してください。(複数回答可)

- 自主学习中心の活動
- 教職員による個別指導
- タブレット等を活用したオンライン授業
- 教育相談などのカウンセリング
- 遊びや会話など、人と関わる活動
- その他()

(13) 「別室」を運営していく上で成果のあった取組について、記述をお願いします。(ない場合は“なし”と記述をお願いします。)

(14) 「別室」を利用していた生徒が教室復帰をしたケースがあったかについて、あてはまるものを選択してください。

- あった → (15) へ
- なかった → (18) へ

(14) で“あった”と答えた方にお聞きします。

(15) 教室復帰をした要因について記述をお願いします。

(1) で“設置しなかった”と答えた方にお聞きします。

(16) 校内に別室を設置しなかった理由について、あてはまるものを選択してください。(複数回答可)

- 不登校及び不登校傾向の生徒がいなかった。 → (18) へ
- 不登校及び不登校傾向の生徒はいたが、生徒が別室の利用を希望しなかった。 → (18) へ
- 不登校及び不登校傾向の生徒はいたが、**縣市町教育委員会が運営する教育支援センター(適応指導教室)**を利用していた。 → (18) へ
- 不登校及び不登校傾向の生徒はいたが、民間が運営するフリースクール等を利用していた。 → (18) へ
- 不登校及び不登校傾向の生徒はいたが、何らかの理由で設置できなかった。 → (17) へ
- その他() → (18) へ

(16) で“不登校及び不登校傾向の生徒はいたが、何らかの理由で設置できなかった”と答えた方にお聞きします。

(17) 何らかの理由について、あてはまるものを選択してください。(複数回答可)

- 場所に関する理由
- 人の配置に関する理由
- 教職員間の共通理解に関する理由
- その他 ()

回答している方、全員にお聞きします。

(18) 「別室」を運営していく上での課題について、記述をお願いします。(ない場合は“なし”と記述をお願いします。)

※「別室に関わる質問」の回答の提出は、右記の二次元コードを読み取り、Google Formsにてお願いします。



不登校早期発見のための「観察する視点」「気づきの具体例」

— 学校で教職員が感じ取る兆候チェックシート — 静岡県総合教育センター教育相談課

| 生活面 | | 主に行動で現れている具体例 | |
|------------|--------------------------|------------------|-----------------------------|
| 学校への抵抗感 | <input type="checkbox"/> | 教室に入ることを嫌がる | 不安・焦燥感・回避・拒絶などの心理的葛藤の表れ |
| | <input type="checkbox"/> | 保健室への来室が多い | |
| | <input type="checkbox"/> | 欠席遅刻が増えた(早退) | |
| | <input type="checkbox"/> | 体調不良が続く | |
| 情緒不安 | <input type="checkbox"/> | 表情がいつも暗い・不安そう | 表情・態度などの観察から |
| | <input type="checkbox"/> | 登校時からしょんぼりしている | |
| | <input type="checkbox"/> | イライラしやすく物に当たる | |
| | <input type="checkbox"/> | 気分の浮き沈みがある | |
| 多 訴 | <input type="checkbox"/> | 些細なことで訴える | 子どもと関わる中で見えてくる「気づき」 |
| | <input type="checkbox"/> | 悩み(不安・不満)が多い | |
| 孤立行動 | <input type="checkbox"/> | 図書室・トイレを居場所としている | 孤立感の強まり (孤立を気付かれたくないことも) |
| | <input type="checkbox"/> | いつも一人で移動している | |
| | <input type="checkbox"/> | 給食時に机が一人だけ離れている | |
| | <input type="checkbox"/> | 一人でお弁当を食べている | |
| 本人・家族の不登校歴 | <input type="checkbox"/> | 本人が不登校だった | 引継ぎ時など、他の教職員からの情報 |
| | <input type="checkbox"/> | 兄弟姉妹・保護者が不登校だった | |

| 対人面 | | 伝え方・受け止め方タイプ別の具体例 | |
|-------|--------------------------|----------------------------|-------------------------------------|
| 受動的 | <input type="checkbox"/> | 相手の気持ちを考えすぎてしまう子 | 消極的、受け身的であり、一見目立たないので見落とされやすい |
| | <input type="checkbox"/> | 自己主張がない子 | |
| | <input type="checkbox"/> | 自分の意見がうまく言えない子(アサーション力がない) | |
| | <input type="checkbox"/> | 繊細で傷付きやすい、敏感な子(HSP) | |
| | <input type="checkbox"/> | 誰にでも優しい子(先生タイプ) | |
| 過剰適応的 | <input type="checkbox"/> | 援助要請が出せない | 努力家で、プライドも高いため、生き辛さを抱えている |
| | <input type="checkbox"/> | 弱みを見せられない | |
| | <input type="checkbox"/> | いわゆる良い子 | |
| | <input type="checkbox"/> | 周りに相談できない | |
| 衝動的 | <input type="checkbox"/> | イライラしやすく人に当たる | 感情のコントロールが難しく、本人の特性も加わってトラブルに発展しやすい |
| | <input type="checkbox"/> | 友達など対人トラブルが多い | |
| | <input type="checkbox"/> | 教職員の指導に反発する | |
| | <input type="checkbox"/> | 【発達特性】 | |
| | <input type="checkbox"/> | ADHD・自閉スペクトラム症(ASD)の傾向がある | |
| | <input type="checkbox"/> | ルールの理解が苦手・ルールが守れない | |
| 劣等感 | <input type="checkbox"/> | 集団内のグループなどで立ち位置が変わった子 | 友人関係内で劣等感を感じている |
| | <input type="checkbox"/> | 進路別・学力別などのステータス | |

* 不登校は誰にでも起こりうると認識し、教室内の関係づくりを大切にしましょう。

資料3

「安心できる別室」チェックシート ー待っていてくれる人がいる場所・今日やることがある場所ー

静岡県総合教育センター専門支援部教育相談課

| 項目 | キーワード | 内容（教職員は・・・） | 留意点 |
|-------------|---|---|---|
| 基本姿勢 | 傾聴 | <input type="checkbox"/> 本人が考え、気付く話の聴き方をしている | <ul style="list-style-type: none"> ・まずは「来た」を認める ・助け/助けられる経験の良さに気付かせる ・支援者が欲張ることは、焦らせることになる |
| | 自己肯定感・自己効力感 | <input type="checkbox"/> できていること、できたことを認め、伝えている | |
| | 限度・ブレーキ | <input type="checkbox"/> できたからといって「もう少し」と欲張らないようにする | |
| | SOSの出し方の促進 | <input type="checkbox"/> 困ったことを話せたことを褒める | |
| 学校経営上の理念 | 体制整備 | <input type="checkbox"/> 別室の配置や活用しやすいルールとなっている | <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営上の理念に基づく運営が検討されている |
| | 小・中・高の連携 | <input type="checkbox"/> 管理職間・学校間において子どもの様子を把握している | |
| 設置上の整備 | 配置場所 | <input type="checkbox"/> 別室・保健室・相談室など状況に合わせている | <ul style="list-style-type: none"> ・学習面と心理面のフォローを意識する |
| | 人的配置 | <input type="checkbox"/> いつ、誰が来ても対応ができる体制である | |
| 活用上の配慮 | 支援計画立案 | <input type="checkbox"/> 保護者・本人の希望をくみ、一緒に作成している | <ul style="list-style-type: none"> ・中期的な支援計画について、見通しを持てるように立案する ・本人の様子に合わせて、柔軟な対応をする |
| | 活用ルール | <input type="checkbox"/> 子どもが安心できる、柔軟なルールになっている | |
| | 出欠席の把握 | <input type="checkbox"/> 出席カードを本人への声掛けの材料としている | |
| | 教職員との関わり | <input type="checkbox"/> 本人の様子を複数の教員が確認し、声を掛けている | |
| | 別室・保健室・相談室 | <input type="checkbox"/> 本人の状況により部屋を使い分けている | |
| 保護者連絡 | <input type="checkbox"/> 保護者との連絡は、曜日と時刻を伝えている | | |
| 校内の連携 | 情報共有 | <input type="checkbox"/> [本人が書いた]計画表を使い本人の状況を把握している | <ul style="list-style-type: none"> ・安全、安心な場所として改善につなげようと焦らない |
| | 支援会議 | <input type="checkbox"/> チーム支援を意識し、役割分担している | |
| | 別室登校への理解 | <input type="checkbox"/> その子らしさを大切にしない焦らせない指導をしている | |
| 子どもと保護者への周知 | 広報・紹介 | <input type="checkbox"/> 相談窓口の掲示、保護者来校時に広報・紹介をしている | <ul style="list-style-type: none"> ・相談室や別室は、活用してよい場所であることを日頃から伝えておく |
| | 顔合わせ | <input type="checkbox"/> 支援員と子どもが顔を合わせる機会を意図的に作っている | |